

## 環境協定締結事業所におけるこの1年間の取組みの成果

事業所名	福井県民生活協同組合
代表者	理事長 <sup>たこう</sup> 竹生 <sup>まさと</sup> 正人 (組合員数 (2014年度末) 14万4,428人)
所在地	福井市開発5丁目1603番地
協定期間	平成26年11月1日～平成27年10月31日 (初回締結日 平成19年11月1日)

### 取組み内容と成果 (裏面に写真掲載)

- ◇ 地域の回収拠点として「リサイクルステーション」を活用し、古紙や廃食油の回収を進めるとともに、古紙や容器包装の集約を行い、品質の高いリサイクルの一次加工(圧縮・減容処理)を行う「エコセンター」を設置し、事業所や組合員家庭から出る資源物リサイクル促進を図った。
  - ・リサイクルステーションにおける回収量：古紙1,083.7t、廃食油10,008kg
  - ・エコセンター平成27年6月～稼動。古紙回収実績 7月～10月で約800t
  - ・新聞古紙の共同購入での回収をスタート。週回収約1,000kg
  - ・新たに小型家電の回収拠点を福井市内の3店舗で実施。
- ◇ 一般家庭に「HEMS」を設置し、家庭で使用するエネルギーの見える化と、省エネ効果について、実証実験を行った。また、ハーツはるえとさばえ店で「BEMS」によるエネルギー管理を行った。
  - ・「HEMS」実証実験：県内の30世帯の家庭で実施。また、うちエコ診断や省エネ診断といった家庭の省エネツールと「HEMS」を組み合わせた、家庭エネルギー実態と対策効果の検証を行った。(平成25年～平成26年の2年間の実証実験)
- ◇ 生協自身が低炭素社会の実現に貢献するため福井県の太陽光発電設備補助事業により発生した国内クレジット(CO2排出権)を購入した。
  - ・国内クレジット譲渡式：平成27年3月
  - ・国内クレジット譲渡量：250トン(平成26年度内に国内クレジット委員会で償却)
- ◇ 県内小学校からのハーツ環境教室の受入れなど、地域の環境教育の推進に貢献した。
  - ・ハーツ教室受入れ：10校、430人
- ◇ 店舗でのMSC特設コーナーの設置やカーボンフットプリント商品の販売を行い、県民へ環境配慮型商品の普及を行った。
  - ・新たにレインフォレスト・アライアンス認証製品の取り扱いを開始。熱帯雨林の維持することを目的としています。
- ◇ 生協が発行するチラシなどの広報媒体を活用し、地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」の普及促進に努めた。
  - ・生協の機関紙「がんばらにゃ」に、毎月LOVE・アース・ふくいのロゴと取組み参加の紹介を行った。(55,500部×12ヶ月)

## 環境協定締結事業所におけるこの1年間の取組みの成果

事業所名 福井貨物自動車株式会社  
代表者 代表取締役社長 清水<sup>しみず</sup> 則明<sup>のりあき</sup> (社員数460人)  
所在地 福井市西開発3丁目204番地3  
協定期間 平成26年11月25日～平成27年11月24日  
(初回締結日 平成22年11月25日)

### 取組み内容と成果 (裏面に写真掲載)

- ◇ 社員による日々の車両点検整備の確実な実施、運送資材廃棄物90%以上の再利用実現を目指した徹底的な分別を行いました。
  - ・グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定のレベル以上の取組みを行っている事業者に対して、審査の上認証される「グリーン経営認証」が継続認定(書類審査)されました。  
※平成16年から更新中 (2年更新)
- ◇ エコドライブ委員会を設置し、エコドライブに関する毎月の目標に向け、活動推進状況のチェック、指導を行い、社員一人ひとりの環境に配慮した行動の促進に努めた。
  - ・ドライバー全員からエコドライブに関する標語を募集し、優秀賞5作品に賞金を進呈  
(約210点の応募あり)
  - ・優秀賞5作品を毎日週替わりで、朝礼等で唱和し、さらなるエコドライブ向上を目指す。
- ◇ エコドライブ技術のさらなる普及・浸透を目指し、エコドライブ講習会を実施することにより、環境に配慮した貨物運送事業のステップアップに取り組んだ。
  - ・5月16日 福井市において行われたエコドライブ講習会(いすゞ自動車様主催)に16名が参加
- ◇ エコドライブの技術や工夫、対策などがノウハウとしてドライバー全員に共有できるよう、毎月、運行種別ごとの少人数グループ単位で成果や反省点を話し合うエコミーティングを開催し、社員一人ひとりの運転技術および会社全体の平均燃費の向上につながった。
  - ・停車時や走行時の前車との車間距離や、暑い夏をエアコン控えめにしてのりきる工夫等  
各グループで意見を出し合い、積極的に取り組んでもらった。
- ◇ 全員参加の班別ゴミ当番制を実施し、ゴミ全体の90%以上の再利用実現を目指して、社内で発生するゴミを20種以上に分別するよう、徹底的に取り組んだ。